

R3 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和4年3月1日

法人名 園名
 社会福祉法人エンゼル福祉会 認定こども園エンゼル子どもの家

まとめ 全体平均 4.57

第2章第2節
 乳児期の園児の保育
 一人一人の発達を応じて環境を整え、心地よく過ごせるように努力することが出来た。子どもたちと信頼関係を深め、気持ちを受け止めながら関わられるよう心掛けた。集団として捉えるのではなく、個人として捉える。そして、人間的な温かい関りをしていきたい。子ども達の五感を刺激するような遊びを考え、一緒に楽しむことが出来たと思う。身の回りのものへの興味を引き出すことができた。既製品だけでなく、手作りおもちゃなどの温かみのある玩具を用意した。

第2章第3節
 満1歳以上満3歳未満の園児の保育
 様々な形で全身運動を促すことができた。発達、発育の差に留意しながら一人ひとりに合った援助ができるよう配慮した。同じクラスの子、異年齢、担任、担任以外の保育者など様々な人との関わりを持ち、人との関わり方や簡単なルールなどを知っているように配慮した。身近な動植物、自然環境に興味を持てるよう実際に見たり触れたりした。絵本に親しんだり、保育教諭と言葉のやり取りを楽しみながら発語を促した。コロナ禍でマスクで保育者の顔半分が見えないため、目での表情の伝え方に気を付けるようにした。リトミックを定期的に取り入れて表現力を養った。

第2章第4節
 満3歳以上の園児の教育及び保育
 自分の体を知る機会を設け保育教諭と一緒に調べることで自分の体を大切にすることが育つよう配慮する。時間の配分や学年で話し合い協力しあうことで、戸外活動、室内遊びをバランスよく取り入れるように心がけ、自然に触れる機会も作れた。園児が互いに関わりを深め、共同して遊ぶことで自ら行動する力が育つよう関わっている。近所の方や工事している方に元気に挨拶していた。子どもの興味・関心を察知して、継続して遊び込めるような環境づくりややりたいと思いが実現できるような素材の準備などの工夫を心掛けた。生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現に触れこれらを使う楽しさを味わえるよう工夫している。

第2章第5節
 教育及び保育の実践に関わる配慮事項
 保護者に信頼されるよう努め、最新の知識を取り入れてくようにしたい。個々の発達段階を理解し、担任と保護者とで情報を共有し、職員間に伝達することで一体感を持って保育をすることができた。子どもの姿を十分に観察し子どもの情緒の安定を図りながら探索活動が十分にできるように、職員の配置を見直して事故のないように努めた。子どもが試行錯誤しながら自分の力で活動する姿を見守り適切な援助をするよう心がけている。人格形成の大切な時期、人ひとりを尊重して関わってきたい。

第3章
 健康及び安全
 職員間で情報を共有し、園児の健康状態や発達発育について理解するよう心がけることができて良かった。新型コロナウイルスが流行しているが、子どもの視診触診を小まめにしながら、全職員で園内での感染症予防に努めることができた。コロナ禍であっても出来ることを職員で話し合いながら、子どもたちが楽しめるよう工夫していきたいと思う。前年度に続く新型コロナウイルスの影響で、園行事等が制約にみまわれ、食の面でも残念な部分があった。でも、職員皆との連携の下、創意工夫しながら、出来る限り 食への取り組みをしてこれたと思う。

第4章
 子育ての支援
 保護者の相談にこたえ、子ども支援センターや小学校と連携をとりながら、本児にとって最善のかたちを模索している。子どもの成長を保護者と共有し、信頼関係を深めるように努めている。発達に応じた適切な対応ができるように支援をしているつもりではあるが、本当にこれでよかったのか自問自答している。一時預かり事業は、保護者の要望に応じながら子どもを預かるように努めている。個別な支援が必要な園児に対しては、保護者と面談を行い園と家庭での様子を伝え合い対応しているのでよいと

第5章
 職員の資質向上
 コロナ禍において、日常生活、保育内容、活動、消毒などの雑務、スタッフ不足対応など、やるべきことが増えたにもかかわらず、各々が協力し合い、工夫をこらし子どもたちの為に環境を整えたり、子ども一人ひとりが安心して過ごせるように関わったりすることができるエンゼルスタッフの資質向上とプロ意識には感心させられる。

総合
 どの領域においても、一人一人に寄り添った援助や発達に応じた適切な対応ができるように、子どもをよく観察し、保護者と情報の共有し信頼関係を深めるなどを意識しながら保育ができていたと感じた。コロナ禍において、制限されることも多く、また、消毒等の雑務も増える中、職員が連携・協力し、お互いを思いやることを忘れず、工夫を凝らして業務にあたっていることに感謝したい。本格的にコドモンが始動し、保護者もうまく活用してくれている。保育業務としてはまだまだ有効活用できる部分があると思われるので、コドモンプロジェクトチームを中心に全職員の理解のもとに活用の幅を広げていきたい。

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.77
「3歳未満児保育」	32	4.75
「3歳以上児保育」	53	4.36
「教育保育の配慮事項」	16	4.60
「健康・安全」	29	4.92
「子育ての支援」	18	4.10
「職員の資質向上」	7	4.57
計	170	4.57

